

Contents

- ❖ 商工会議所と大学との連携 1
- ❖ 活動報告(1～2月) 2
- ❖ 「化学プロセスへの膜分離利用技術研究会」第1回開催報告 2
- ❖ 産学連携商品紹介 3
- ❖ 知的財産に関する気になる Q&A 3
- ❖ これからの活動(イベント)情報 4
- ❖ 産学・地域連携センター 国際・産学連携部門 准教授紹介 4
- ❖ 編集後記 4



商工会議所と大学との連携

府中商工会議所
専務理事 和田達雄



商工会議所は法律に基づいて設立された唯一の総合経済団体で、会員企業の発展と地域振興のために幅広い活動を行っています。また、全国には514の商工会議所が設置され、124万人の会員の声を国の政策等に反映するための意見・要望活動を積極的に展開しています。

当商工会議所のある広島県府中市は内陸工業都市として発展し、機械・金属、ワーキングウェア、家具、味噌など多くの地場産業が立地しています。当商工会議所の会員数は1,750社で会員企業の経営支援とまちづくりに取り組んでいます。

広島大学と当商工会議所との関係が始まったのは、平成14年に遡ります。当時は地場中小企業のほとんどが大学とのパイプを持っていませんでした。このような状況から広島大学へお願いし、当所で広島大学の研究成果の紹介と大学の活用についてセミナーを開催していただきました。当日は広島大学から10人の先生方においでいただき、企業との交流会にもご参加いただきました。これをきっかけに4年後に府中産学官連携研究会がスタートし、以来毎年、広島大学の府中キャンパスを当地で開催していただいています。また、毎月、産学・地域連携センターのコーディネーターと当所の職員とで会員企業の訪問を行っています。このような活動の中からいくつかの共同研究も生まれるようになりました。商工会議所を通じて大学の知見や最新の技術情報を気軽に活用できるようになったことは、ものづくりの町と言われる当地域の中小企業にとって大きな価値となっています。

産学・地域連携センターの皆様と接するとき私がいつも感じますのは、企業との連携に対する先生方の前向きさと積極的な姿です。このような姿勢で接していただくおかげで、当地域の企業と大学との垣根が非常に低くなったと思います。大変ありがたく、感謝申し上げます。

今後も当地域の中小企業のご指導ご支援をお願いする次第です。



Report 1 地域企業若手技術者向けイノベーション研修プログラム

第30回(1月14日)の講師は、工学研究院の中下慎也助教。

「都市化と自然現象(Ⅱ)」と題して研修を行いました。

河川、海域における身近な自然現象の解説やヘドロの発生原因からその浄化方法などについて、動画を使った事例紹介などを行ない、都市化がもたらす生態系への弊害を中心に生活の有り方について考える内容の講義を行いました。

第31回(2月10日)の講師は、工学研究院の菅田淳教授。

「金属材料の疲労強度特性」と題して研修を行いました。

繰返し荷重下で生じる破壊現象である疲労挙動について、疲労強度評価方法ならびに疲労強度に及ぼす各種因子(切欠き効果、寸法効果、平均応力、微小欠陥)についての解説を行ないました。(Y. Y)



「化学プロセスへの膜分離利用技術研究会」第1回開催報告

開催日時 平成26年2月18日(火) 13:30~17:45

開催場所 ホテルセンチュリー21広島 2階フォルザ

主催 中国経済連合会、化学工学会反応工学部会(反応分離分科会)

共催 中国経済産業局、ちゅうごく産業創造センター

後援 広島大学産学官連携推進研究協力会

協賛 化学工学会中国四国支部、中国地区化学工学懇話会、山口地区化学工学懇話会、岡山地区化学工学懇話会

講演・講師 (1) 基調講演:「化学プロセスへの膜分離利用技術の現状と展望」

RITE(地球環境産業技術研究機構) 化学研究グループ主任研究員 甲斐 照彦 氏

(2) 話題提供:

①「膜型反応器の開発と応用:メタン水蒸気改質による水素製造、エネルギーキャリアへの応用を中心として」
広島大学大学院 工学研究院 教授 都留 稔了 氏

②「ゼオライト膜の膜型反応器への応用」 山口大学大学院 理工学研究科 教授 喜多 英敏 氏

参加者人数 57名(三菱レイヨン、トヨタ自動車、マツダ、ダイセル、戸田工業など)

開催報告 我が国の化学企業では、化学品は主に蒸留方法により分離・精製されています。しかし、この蒸留操作は非常に多くのエネルギーを必要とするので、これに替わる省エネルギーの分離精製方法が切望されています。第1回目の研究会では、上記著名な講師による講演が行われ、多くの聴講者を得て開催されました。全講演終了後の質疑応答も活発に行われて、有意義な講演会となりました。最後に、ご講演いただいた講師の先生方、ならびにご参加いただいた皆様方に改めまして感謝申し上げます。下記には講演会風景の写真を示します。(H. S)



中国経済連合会都留理事挨拶



都留先生講演



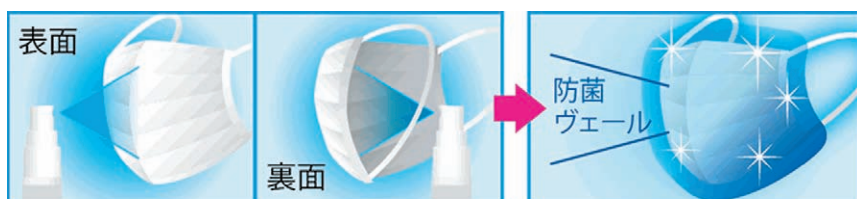
参加者の質問に答える講師の先生方

このページでは、企業と広島大学との共同研究の結果、商品化につながったものを紹介して参ります。

産学連携商品紹介

クリスタルヴェール マスク防菌 24

広島大学の二川浩樹教授考案の技術を用いて、エーザイ(株)から2012年9月クリスタルヴェールシリーズとして、マスク防菌24が新しく発売され、年間ミリオンセラーを目指しています。



噴霧口をマスクに向け、適量(3~4プッシュ)をマスクの外側・内側それぞれに約10cmほど離して均一にスプレーして下さい。



商品情報

定価1,381円/本(税込)



関係機関・研究者

エーザイ(株)、広島大学(二川浩樹教授)



問い合わせ

エーザイ(株)

<http://www.eisai.co.jp/>



知的財産に関する気になるQ&A

知的財産部門

Q1 研究の結果生み出した成果物(有体物)を営業に有効活用できるかどうか試験等を行って確認してみたいのですがどのような手続きが必要でしょうか。

A1 有体物提供契約(MTA)を締結して行います。その内容として、主に有体物の目的外使用の禁止、料金、秘密保持、研究成果報告、成果に関する取扱及び契約期間終了の残余有体物の取扱い方法などが記載されます。

Q2 大学の研究成果について、直接、先生からもっと詳しい話を聞き、また当方の情報も提供しながら相談したい、どのような手続きが必要でしょうか。

A2 お互いの秘密がきちんと守られるように秘密保持契約を締結して行います。その内容として、主に秘密情報の定義、秘密情報の取扱い制限及び有効期間などが記載されます。

* 知財に関する相談窓口

知的財産部門 山根 義則

TEL: 082-424-2279

E-mail: yamayosi@hiroshima-u.ac.jp

これからの活動(イベント)情報

産学官連携推進研究協力会の今後の活動予定をお知らせいたします。
ご興味をお持ち頂けたイベントにはぜひご参加下さい。

3月

1 第11回 研究紹介と交流のゆうべ

「機械加工のトラブルとその周辺技術」

日時 3月5日(水) 17:30~19:30 場所 府中商工会議所 1F会議室

講師 工学研究院 關谷 克彦 助教 後援 府中商工会議所

2 地域企業若手技術者向けイノベーション研修 (第32回)

「低サイクル疲労ならびに変動荷重下の寿命推定法」

日時 3月10日(月) 17:00~19:00 場所 産学・地域連携センター VBL オフィス

講師 工学研究院 菅田 淳 教授

3 講演会「ヒューマンモデリング 国際ワークショップ」終了後、交流会を開催します。(会費:2,000円)

日時 3月20日(木) 9:20~17:00 場所 メルパルク広島

4月

1 地域企業若手技術者向けイノベーション研修 (第33回)

「歯車の損傷と強度設計」

日時 4月21日(月) 17:00~19:00 場所 産学・地域連携センター VBL オフィス

講師 工学研究院 永村 和照 教授

これらの情報は、HPをご覧ください。 <http://www.hiroshima-u.ac.jp/sangaku/>

産学官連携推進研究協力会についての入会方法および活動情報の URL は
<http://kyoryoku.hiroshima-u.ac.jp/> をご参照ください。

産学・地域連携センター 国際・産学連携部門 准教授紹介



白浜 博幸 Hiroyuki Shirahama

E-mail: hiro50@hiroshima-u.ac.jp

ひとこと:

伝統は革新の連続とも言われています。文化にしろ、芸術あるいは技術にしろ、現在も脈々と続いている「伝統」は、その折々の「革新」の連続の賜物というわけです。いま話題となっている iPS や STAP 細胞もある日突然に発見されたわけではなく、日々の苦勞の連続の結果、生み出されたものと言えるでしょう。大学の三大使命はこの良き「伝統」すなわち、①知の創造(研究)・②継承(教育)を通じて、③知の活用(社会貢献)をしていくことにあると考えられます。念願の(本学)研究協力会が発足して4年目を迎えておりますが、来年度も協力会会員の皆様方のご鞭撻をいただきながら、産学官連携活動を強力に推進して参りますので、なお一層のご支援をお願い申し上げます。

編集後記

1月・2月は、あっという間に過ぎ、いつのまにか3月の年度末を迎えています。先月は、あまりの寒さに遅ればせながら炬燵を出し、炬燵に入ったら炬燵から出ることが出来ず、手の届く範囲に必要なものを置いて生活をしてしまいました。

これからの季節は、少しずつ暖かくなることを期待しながら、体を動かしていこうと考えています。(F.O)



発行：産学官連携推進研究協力会事務局 (広島大学社会連携推進機構 社会連携グループ内)

〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号 TEL: 082-424-6031 / FAX: 082-424-6189 / E-mail: syakai-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

お問い合わせ先：広島大学 産学・地域連携センター 国際・産学連携部門

〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号 TEL: 082-424-4302 / E-mail: techrd@hiroshima-u.ac.jp